

モデルエリアの範囲について

■エリアの分け方について

「(仮称) 地域委員会構想」についてで説明した通り、従来の区分では多摩市の地域・地区・エリア(以降、単に「エリア」)は2から21の単位に分割できる。

町名21、小学校17、コミュニティエリア10、中学校9、地域包括支援5、NT・既存2

地域委員会がエリアの代表性を確保するためには、市域を漏れなく重複なく分割する必要がある。一方、どの単位で区分けを行ってもエリアの境界が生活圏となる住民、複数エリアに生活の根拠をする住民の存在、エリア内で同一の課題感を持たない住民同士の共存が起きうる。代表性が低下してでも境界を曖昧にして、おおむねその範囲を関心エリアとする市民(在勤・在学含む)の参加を求める方式も考えられる。

■モデルエリアの範囲設定

上述した課題を踏まえ、モデルエリアの選定については、2つの単位の異なるエリア設定にて市民の参画度合いを比較検証したい。

- ・モデルエリアA：コミュニティエリアと中学校区がおおむね一致し、住民の生活圏がおおむね特定できるエリア
- ・モデルエリアB：コミュニティエリア・中学校区・自治会範囲が一致しないパターン。中心となる軸を小学校区もしくは自治会の範囲に絞る(場合によっては近隣の市民含む)

令和2年度のモデルエリアでの地域懇談会などの運営により、参加市民の構成やコミュニティに対する考え方を調査する。

